

帳票での情報発信の取り組み

藤井 敦*

帳票における情報発信は、ポスターや広告等とは求める役割が異なる。どちらも情報を伝えることには変わりはないが、大きく異なるのは帳票には「使う」という役割がある点だ。利用者が使うにあたって困らない、迷わない、結果としてミスとならないような「わかりやすい」づくりが求められる。当社ではユニバーサルデザイン（UD）に配慮した帳票設計をおこない、よりわかりやすい情報発信を追求している。その事例として、ここでは帳票改善のプロセスと、取り組むための「改善の一步目」をご紹介します。

わかりやすさに完璧なゴールはない

当社の帳票改善では、現状より「多くの人が利用できるもの」「わかりやすいもの」「使いやすいもの」になるようにUDの考えを取り入れて作り上げている。そこには「どこまでやったからUDといえる」という線引きや「完璧なUD」「完璧にわかりやすい」という限界点もない。帳票改善の際には、現状と比較してより多くの人々がわかりやすく使いやすい帳票になっているかを意識しながら取り組んでいく必要がある。

帳票コンテストへの参加と改善のプロセス

2022年10月、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会（UCDA）主催のUCDAアワード2022「協賛企業によるコンテスト」帳票カテゴリにおいて当社デザインが実行委員長賞を受賞することができた。このコンテストは実在する帳票を題材とし、協賛企業各社がよりわかりやすい帳票へと改善デザインをつくるものである。今回の題材は「一般旅券発給申請書」。いわゆるパスポートの申請書である。

改善にあたっては ①生活者目線での体験、②課題を見つける、③UDを活用した改善、というプロセス（図1）で取り組んだ。①②で見つけた課題から、今回の改善のコンセプトを「利用者がやること・記入箇所の明確化」とした。情報量



図1 帳票コンテストでの改善プロセス例

* FUJII Atsushi
株式会社イセト
プロダクト統括本部 CIC デザイン部 部長
〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町 12-12
suishin@iseto.co.jp